

或青年の死

小泉 荻三

琵琶湖より風吹ききたる曉の山科街道にいのちたたり

感傷的気分陶酔のはかなきに溺れてもろく死にしといはむ

文芸に生命かけしといふべくははかなき感傷に負けてしまひしなり

素直にいけ容れ人にはあまりにも気分陶酔に

過おしは責めむ

個人主義にとづく感傷に青年のいのちをすてむ時は過おたり

感傷に陶酔せらるるまま生命たらし刹那の気分をひそかに推測する

死にて往くものはさもあらばあれ残さぬし母をひとへに秋風